ロジャー・ウィリアムズ
「洗礼はキリスト教徒をつくらない」：解題・翻訳

平野　陽子

解題

本稿は、17世紀のニューイングランドにおいて、史上初めて政教分離を明文化させたイングランド人、ロジャー・ウィリアムズ（1603-1683）による「洗礼はキリスト教徒をつくらない」全文の和訳である。翻訳の底本としては*The Complete Writings of Roger Williams*, vol.7, Oregon: Wipf and Stock, 2006 (repr. from Russell and Russell, 1963), pp.29-41を用いた。

この10ページほどの小冊子は彼の5番目の著作で、1645年にロンドンで刊行された。先行研究において重点的に扱われることはほとんどないが、彼の著作の中では、前期と後期の橋渡しとなる重要な位置を占める資料として価値があるといえる。

内容は大きく二つに分けられ、前半はインディアンに対して用いられていた「Heathen（異教徒）」という語についての論考、そこから「キリスト教徒」の定義と、いわゆる「キリスト教国」に対する痛烈な批判を含む。ウィリアムズは「Heathen」の元来の意味に立脚し、「民族」、「異邦人」を意味するにすぎないこの語を、「異教徒」としてインディアンに当てはめて呼ぶのは不適切であると指摘する。またローマ・カトリック教会、教皇制度といった黙示録の「獣」に相当するものに服従するカトリック教国のみならず、これに反抗しながらも完全には分離していないプロテスタントも同様に異教徒ではないかと鋭い非難を浴びせる。

後半ではインディアンがキリスト教に回心する可能性について論じ、洗

礼ではなく「本当の回心」によって人はキリスト教徒になると主張する。当時の大半のイングランド人は、インディアンは「異教徒」であるから、自分たち「キリスト教徒」の敵であり、排除されて当然だと考えていた。そのような時代背景のもとで、ウィリアムズは理論だけでなく、インディアンとの共同生活という自身の実体験から、インディアンもイングランド人と同じ人間であるということを認め、尊重する姿勢を示した。そしてインディアンも人間であるから、キリスト教徒になる希望があると主張する。

ウィリアムズはインディアンという、当時のイングランド人にとっての「他者」と向き合うことを通して、自身も属するいわゆる「キリスト教国」、「キリスト教徒」という立場のあり方を問い直す必要を同郷のイングランド人に強く迫った。この小冊子は一見、インディアン伝道の可能性を主張し、伝道を促進させることに主眼を置いているように思われるが、異文化の中にいる他者を、同じ人間であると認め、自身と同等の存在として扱い、尊重するという現代の基本的人権の根本的な考え方につながる思想を17世紀に提示したことに最大の意義がある。

謝辞

本稿は、筆者が本学教養学部アーツ・サイエンス学科に提出した卒業論文「ロジャー・ウィリアムズに見る宗教的寛容の原点」の付録を抜粋し修正したものです。

本稿の作成に際し、多忙の合間を縫って温かくご指導してくださった、卒業研究の指導教授でもある森本あんり教授に深く御礼申し上げます。本稿の掲載は、先生のご厚情を賜り初めて実現することができました。

また、本学キリスト教と文化研究所助手の山口京一郎氏、美添真樹氏にも、多大なご尽力をいただきました。原文の出版社への掲載許可確認、原文中のギリシア語やヘブライ語の専門的な知識、論文掲載上の技術的な問題など、至らない筆者を終始丁寧にご指導、ご支援くださったことへの感謝は尽きません。

最後に、*The Complete Writings of Roger Williams,* vol.7からの原文の掲載を許可してくださったWipf and Stock Publishers、本稿の執筆、掲載にあたりご協力くださった多くの方々に、心より感謝いたします。

「洗礼は**キリスト教徒**をつくらない
——**インディアン**に通常用いられる異教徒という名について、
また彼らの**回心**という重大な点についての短い論考」

凡例

一、原文のイタリック体については、傍点で示した。
二、聖書の出典箇所を示すイタリック体についても、原文ではイタリックとローマン体が混在していることから、イタリックの有無を厳密に示すために敢えて傍点を付した。
三、原文で全体が大文字表記された語については、ゴシック体で示した。

まず最初に、*Heathen*という、イングランド人がインディアンに与える名、またオランダ人が彼らの名のもとに承認し使う、異教徒や民族を意味するHEYDENENという名を敢えて問う。わたしはなんと頻繁にイングランド人もオランダ人も（礼儀正しい人々だけでなく、極めて堕落し不敬な人々も）、次のように言うのを聞いてきたことか。われらキリスト教徒が危険にさらされたり苦しめられるより、この異教の輩を大量に殺すほうがましである。それに、彼らが皆殺しにされるほうがよい、そうすればこれ以上彼らに煩わされずに済む。彼らはキリスト教徒の血を流してきた。最善策は、彼らを処分し、皆殺しにし、そうしてキリスト教徒に道をあけることであると。

それゆえ、あらゆるわが同郷人に次のことを熟慮するよう嘆願しよう。人々はこの*Heathen*という言葉を、裸で暮らし、唯一神のことを聞いたことがないインディアンに当てはめるが、この*Heathen*という言葉をこの意味で用いることは極めて不適切で罪深く、野蛮である。*Heathen*という言葉は民族や異邦人を意味するにすぎない。それでわれわれの旧新約聖書に

おけるヘブライ語גוים[1]やギリシア語ἔθνη[2]からの翻訳も、異邦人、民族、異教徒と行き当たりばったりに訳しているのである。

なぜ民族なのか。なぜなら神の唯一の民であり民族であるユダヤ人は、他のあらゆる人々、裸でうろつき回る民だけでなく、有名な**バビロン人**、**カルディア人**、**メディア人**、**ペルシア人**、**ギリシア人**、そして**ローマ人**、彼らの威厳ある都市や市民を、ユダヤ人より劣っていて、自分たちの光栄ある特権を分かち合う人々ではなく、異国民、異邦人、異教徒、すなわち世俗の民族であると考えた（し、それは正しかった）からである。

さてそれでは、主イエスの到来と、神の第一の予型の聖なる民であるユダヤ人の拒絶以来、神の民、神の聖なる民とは誰なのか問わなければならない。

キリスト教徒、すなわちイエスに従う者たちが、今では神の唯一の民、神の聖なる民など、ἔθνος ἅγιον であるということはあらゆる人々に認められている、Iペト2:9。

それならば、この神の民に対して、民族、異教徒、異邦人とは誰なのか。あらゆる人々、文明人と同様、未開人、世界で最も有名な国家、都市、王国でさえそうであると、わたしは答える。なぜならば、すべての人々が、Iコリ5にある、内部か外部かの区別の内に入るからである。

神の民の内部というのは、**コリント**にある神の教会である。外部というのは偶像を崇拝する**コリント**の都市であり、だからその結果、他のすべての人々は神の民である真のユダヤ人に対立する**異教徒**、**民族**なのだ。それゆえ、生まれながらのユダヤ人たち自身が今やこの神の民でないので、異

1）　底本ではכרים と誤って印刷されているが、London: Iane Coe, for I. H. の1645年の初版（British Library 所蔵、*Early English Books Online*, <http://gateway.proquest.com/openurl?ctx_ver=Z39.88-2003&res_id=xri:eebo&rft_id=xri:eebo:citation:99867244> accessed 20 January, 2014. 以下、Iane Coe版）にあるとおり、正しくは訳文中の表記となる。

2）　底本ではἔθνη、Iane Coe版ではἔθνη と印刷されているが、正しくは訳文中の表記となる。

教徒、民族、異邦人である。いかにもこれは多くの専門家に認められるであろう。しかしキリスト教世界に対してあなたがたは何と言うだろうか。キリスト教国に対して、何と言うだろうか。ペテロ、ヨハネ、パウロなど、主イエスの最初の使者たちを、あなたがたはどう思うのかとわたしは答える。その上、もし主イエス御自身がここに（やがておられるように）おられ、答えるように言われたら、この使者たちと主は**キリスト教世界**、**キリスト教国**について何と言うだろうか。もし主がここにおられなければ、主が話すであろうこと、すなわちたしかに主が話したことであり、またやがて話すであろうこと以外のことを、キリスト教徒を自称する者は誰も話してはならない。

ヘロディアスは彼の**キリスト教世界**の地図において、教皇の洗礼が行き届いた限り、全アジア、ヨーロッパ、アフリカの広大な領域、またアメリカの大半をも含めている。

これが**キリスト教世界**、すなわちキリスト教国であり、その点において**キリスト教徒**と**トルコ人**（キリスト教勢の地とトルコ勢の地）の間、このキリスト教**世界**の**キリスト教徒**と**ユダヤ人**の間、そして**キリスト教徒**と**異教徒**、つまり裸のアメリカ人の間の激しい対立という言い方を人々は主張する。

しかし外部は内部になり、**世界**の人々は**キリスト教徒**になり、そして小さな**イエス・キリスト**の群れはそうした見事な回心で驚くほど増えたので、キリストとは何か、キリスト教徒とは何かを敢えて問おう。ヘブライ語のמשיח[3]とギリシア語のΧριστός[4]は、キリストとは、イスラエルの預言者、王、祭司が、彼らの聖別においてまさに予型し象徴するところの、神の聖油で清められた者であったのであり、その内にある（今もある）とい

3) 底本およびIane Coe版ではמשיאק と記されているが、正しくは訳文中の表記となる。

4) 底本ではχρίστος、Iane Coe版ではχρίστοςと印刷されているが、正しくは訳文中の表記となる。

うこと、そこからキリストに従う人々はΧριστιανοί[5]、キリスト教徒、と呼ばれるということ、つまり彼らもまた聖別されているということを示してくれるだろう。だからたしかに、キリスト教徒であるということは二つのことを含意する。第一に、かの聖別された方のあらゆる任務において、彼に従う者であるということ。第二に、彼の聖別を共にすること。というのは、（死を覚悟の上での誰も真似しないであろう**アロン**の聖別のように）主イエス・キリストの聖別が彼の衣服の裾につたうからである。

このキリスト教世界（世界の人々がキリスト教徒にふさわしく、信心深く、聖別された者、神の民などになる世界）により近づくことについて、ヨハネは何と言っているか。天使は何と言っているか。実に、そこから黙示が訪れたところのイエス・キリストと彼の父は、何と言っているか、黙1:1。彼らは獣とその崇拝者に何と言っているか、黙13。

もしかの獣が（最も無知な人々が解釈するように）トルコ人でも、ローマ皇帝でもなく、（最も洗練された人々が解釈するように）総務会、ローマ・カトリック教会、教皇もしくは教皇制度ならば、なぜ全世界の人々、黙13、ὅλη ἡ γῆ は、獣に驚嘆し、獣を崇拝し、獣に従い、獣を誇るのか。彼のようなものは誰もおらず、あらゆる民、国民、民族はこの獣の権力下に置かれ、獣の額、手、名前の数の刻印を持たない者は誰も、買いも売りも生きもしないのだと。

それではもしこの世界、地上とは現世の全世界、つまり（感覚や経験が否定するところの）ヨーロッパ、アジア、アフリカ、アメリカではなく、（あらゆる歴史と時間が証明するように）ローマ帝国からローマ教皇、そしてカトリック王国、かの**ローマを根源とする**派生物へと譲渡されたローマ世界、ローマ君主制の国民、言語、そして民族を意味するならばどうか。

---

5)　底本ではχριστιανοι、Iane Coe版ではχριστιανοὶと印刷されているが、正しくは訳文中の表記となる。

それならば、ここまでで主イエスがキリスト教世界とキリスト教徒について述べるであろうことが分かる。すなわち、たしかに彼が言っていることである、黙14。もし誰かが獣とその像を崇拝するならば、その人は聖書全体が罪人に対してこれまでに提示してきた恐ろしい満杯の杯さえも飲むことなどになろう。

これを認めるならば、たとえばキリスト教国のいくつか、つまりキリスト教世界を作り上げておきながらかの獣に服従する一部のカトリック教国、彼らは地上、すなわち世界であり、かの最も恐ろしい杯を飲まなければならないことになるだろう。しかし、現在では獣の軛から退去しふたたび獣に反抗する民族は、カトリック教徒ではなくプロテスタントであるから、彼らがまた唯一の聖なる民である神の民に対抗して（聖書の真の意味における）異教徒、すなわち民族、異邦人と呼ばれるかもしれないと考えることになるだろうか。

現在プロテスタントと呼ばれるあらゆる民族は、はじめはかの全世界の一部、つまり獣に驚嘆し獣を崇拝などする主な（**反キリスト教的**）大陸にいたと、わたしは答える。それからこれは、（神の**国**と救済に関係しているから）信心深い恐れと戦きをもって傾聴されなければならない。獣との決別、**反キリスト教的**嫌悪や誤った回心、誤った制度すなわち誤った**政体**での**国教会**構想における獣の刻印からの脱却、そして真の完全なる御業に等しい**洗礼**の執行、聖餐、規律、破門は、獣に驚嘆し、獣を崇拝する、かの世界から切り離されたのか、あるいは、そのように切り離されておらず、彼らは依然として半島でも地峡でもなく、いまだに獣のキリスト教国と接触し、結びついているのか。もし今、プロテスタント教国の人々が悔い改めず罪深く、生来の状態のままであるがゆえに主イエスの訓戒を聞くことから遠く離れているのなら、マタ18、キリスト・イエスが、彼らはただ異教徒や収税人のようだ、17節、と言っていたということを、彼らは大いに熟慮し自覚しなければならない（さもなくばイエスという名の告白はついにただ断罪の深刻化を立証するのみとなる）。ではわが同郷の

人々に、かの獣と獣の像からの回心を心に問うてみなければならない痛切な理由は何であるのか熟慮するよう、どのように嘆願するべきか。そして（ローマ方式から引き継いだまたは受け継いだ、考案された礼拝の方法を除いて）単にキリストの名のみを持とうとも持つまいと、彼らの魂や会話は、彼らが回心していない、キリスト教徒ならぬキリスト教徒であるということや、外部の民族、つまり異教徒や異邦人の中から真の神聖なユダヤ人へと、内部における本当の生まれ変わりを手に入れるとはどのようなことなのかまだ知らないということを、表しはしないだろう。

このことは各々の魂の探究にいかに深甚かつ永久に関わっていることか。そしてさらに深く関わるのは、神の家の指導者、統率者、建設者であると告白することである。

第一に、彼らは建物、つまり教会の形式や骨組みに目を向けるからである。

第二に、彼らは手段や方法などに専心するからである。

第三に、彼らはたしかな基礎を築くであろうからである。長続きする基礎は人々に受け入れられる。

第四に、彼らは費用を計算し、当該の建物に相当する額を請求するからである。

第五に、だから彼らは、今は新約聖書の中にある、真の家、都市、王国、神の民、についての真の教会の問題と資料が、整理されて集められるべきであることを忘れてはならないのである。

さて次に、回心の希望と、アメリカの人々を神へ向かわせることについてである。神は人を分け隔てしない。なぜならわれわれは皆、主の御手のわざなのだから。日の昇るところから没するところまで、主の御名は東方から西方およびその他の民の間で偉大とされるだろう。もしアメリカ人の罪を考慮するならば、彼らはヨーロッパの罪人よりも断然罪は少ないのだ。彼らは非常な肉体の恵みをもたないためそれらを乱用せず、ヨーロッパ人がするように、（彼らの間では輝いていない）福音の光に対して罪を

犯すこともない。そしてもし彼らが実際よりも、あるいはヨーロッパ人より罪深いとしても、彼らはその点において恵みの大海からより遠ざかっているとは言えないのである。

最後に、彼らは聡明で、多くは非常に純真であり、飾り気のない心をもち、知識欲旺盛で、（前述したように）多くの信念の心構えなどがある。

それから次いで、カトリックの回心についてである。神はローマ、スペインにおけるこれをご存知であるとわたしは切に願うが、もし反キリスト者が彼らの誤った指導者であるならば（ほぼ間違いなくそうであろうが）、その集団、信仰、洗礼、希望も、（真実とは反対に、エフェ4）また誤っている。実に、結果として（神に神秘を委ねている）彼らの説教、回心、救済はすべて同様に誤った生来の状態となるだろう。

もしその報告（また彼ら自身の歴史学者の幾人か）が正しいならば、なんと奇怪で極めて残酷な回心を彼らは行ってきたのだろう。何千、それどころか何万人もの哀れな先住民たちに、時には謀略と狡猾な企みによって、時には彼らがそうした奇怪な洗礼の前にも後にも理解していないものに服従するよう強制することによって洗礼を施している。三つ目に、われらニューイングランドの地域について、わたしは正直に、確信をもって言えるのだが、ずっと以前から、多くの先住民たち、それどころか全地域の先住民にアメリカで今まで聞いたどんなものよりもはるかにキリスト教的でない回心を施すことの方が、自分自身にとって容易であったとわたしは知っている。わたしは彼らの宗教についての章で、いかに難なくわたしが全先住民に週に一日の礼拝を守らせることが可能であったかある程度報告した。付け加えると、（最初のキリスト教徒と主イエス自身がそうしたように）川においてではあったが洗礼（または洗い清め）を受けさせ、牧師職や祈禱様式、生死における反キリスト教的礼拝の全体の形式を維持する既定教会の集会に行かせることもできた。誰にもこれを不思議がらないでほしい。生来の人間が高く評価し非常に好むところの人間の口にのぼるまことしやかな信仰、支配的な武力や兵力は、（人々が言うように）キリス

ト教国のあらゆる民族にこれを行ってきたのだから。本当に、数年で宗教という点に関してこの国の大多数の人々の、なんと嘆かわしい改宗に次ぐ改宗をわれわれは経験してきたことであろう。

ヘンリ7世のもとでイングランドが完全なカトリックであったとき、ヘンリ8世のもとで不完全なカトリック、不完全なプロテスタントに転向するのがいかに容易であったことか。

ヘンリ8世のもとでの不完全なプロテスタント、不完全なカトリックから、エドワード6世のもとでの完全なプロテスタントへ、エドワード6世のもとでの完全なプロテスタントからメアリー女王のもとでの完全なカトリックへ、そしてメアリー女王のもとでの完全なカトリックから（まるでそれぞれの君主に吹き動かされる風見鶏のように）エリザベス女王らのもとでの完全なプロテスタントへと。

これにも関わらず、こう尋ねる方もおられよう。なぜこのような価値を自身の手にしておきながらそれを活用しないのか、なぜわたしは自分が話したような回心を彼らにさせないのかと。わたしは答える。わたしが光を闇と呼び、闇を光と呼び、甘いを苦い、苦いを甘いと呼ぶならば、わたしに災いあれ。実にキリスト教国における何百万もの魂の破滅、ある誤った礼拝から他の誤った礼拝、そして神の聖なる名、キリスト、神の恵みを受けた洗礼式の冒涜を神への回心とわたしが呼ぶならば、わたしに災いあれ。アメリカは（ヨーロッパやあらゆる国々と同様）罪と不正の内に死した状態にある。死人を生き返らせるのは、深紅の衣をまとった悪魔の一団ではない。彼らは死人の深紅の衣をはぎ取って白に変えるがその人はまだ死んでおり、それを取って金の衣へと変え、またそこからダイヤモンドの衣へ変えるが、その人は依然として死んでいる。なぜなら、人間を回心させるのは形式でもなく、よりよく、よりよく、もっとよく、というひとつの形式から他のもうひとつの形式への変更でもないからである。わたしが言っているのは、イエス・キリストの最期の言葉と聖約の目に見える掟に従って神に受け入れられるような回心のことである。わたしは（たとえ輝

いてはいても、魔術師シモンやユダなどのように純金ではない）偽善者について話しているのではなく、真の明らかな回心について話しているのだ。それでは、（主イエスがペトロに言ったように）人間を捕まえるつもりでわたしが回心を装って人々を神秘的な魚のように、キリスト教徒の状態、つまり回心した状態にするふりをし、そして洗礼式で回心したキリスト教徒のように彼らを増やし、しかしその後さらなる回心によって彼らを捕らえようとするならば、わたしに災いあれ。だが、われわれの間でこれをよしとすること、すなわち幾多の人々を、それどころか以前には自分たちを善き回心者とみなしてきた（個人的な状態においては回心していた）者たちをも回心させることが、無限の憐れみと忍耐において神の御心に適うことをわたしは疑わない。

しかしわたしは、これが近年、つまり（神が人間に影響を与えずに満足する）無知の時代が終わり、今や教会、牧師、そして回心に関するより偉大な光が現れているときにそう頻繁であるか疑問に思う。神が、ご自身の貴重で尊い多くの人々に与えたこのような希有な才能が（主の最も聖なる時期にそうであるであろうように）原型に従って計画されていたのかどうかは疑わしい。言うなれば、（個人においては回心している）者がいたのかいなかったのか、いずれであるかわたしは疑うとともに、わたしが望むのは来るべき神の時に幾多の人々が反キリストの偶像から（個人においても共同の礼拝においても）真の回心をし、生けるまことの神に仕えることである。

最後に、真実なる主イエスへの偽りの回心や誤った礼拝を装ってはならないということは、わたしにとっては論じるに及ばないことである。

もし高潔なベレア人が、わたしが言う本当の回心とは何なのかと問うならば、まず否定的に答える。

第一に、それはネブカドネザルが君主政治のもとで全国民に強制したような、ある誤った礼拝から他の誤った礼拝への、人々の回心ではない。

第二に、それは本当の神、つまりイスラエルの神の礼拝方法と、アッシ

リアの王に人々が転向させられたような、王・下17、偽の神々やそれらの礼拝の混合ではない。その偽の神々の礼拝では、幾世代もに渡って例のサマリア人は、神とメシアに関して彼らの間で多くの健全な真理を有し続けた、ヨハ4。

第三に、それはヤロブアムが10部族を今日に至るまで荒廃と離散に追いやったような、王・上12、本物から偽物への転向ではない。

第四に、それは**ヤコブの**息子たちがシケムの人々を回心させたような、創34、この世のことに関する神の定めに対する形式的な服従への回心であるべきでない。

第五に、それは武力や鋼の剣の力による主イエスの礼拝への回心であるべきでない（本当はありえるべきではない）。実にネブカドネザルが全世界の人々を処弁した、ダニ3、のと同様に、彼の対型で後継者である獣は全地を掌理するのだ、黙13ほか。

しかし主イエスはご自身の最も純粋な礼拝に決して誰もお連れにならなかった。不本意な配偶者や、無理強いの床へ入ることを、彼は（すべての人間、そう、まさにイシディアシと同様）忌み嫌ったからである。礼拝における意志というのは、もし本当ならば、自由な投票のようであり、人は強制せず、また強制されない。**イエス・キリスト**はご自身の使者の強力な説得によって加わることを強いるが、その他の点では、彼は決してこの世の武器で強制しないし、また強制されえない。

この真実を識別しないことがいつの時代も、世俗の激動の中で非常に多くの血を流してきたし、聖人とイエスの証人の血を堕落した社会に飲ませ、大地に飲ませてきたのである。

それはしかし、平和と憐れみの神がキリスト教世界を見下し、彼がさほど必要としてこなかった人間の魂を満たさない限り、（いわゆる）キリスト教世界の破壊や解体となるだろう。わたしは（世俗的な武器によって維持されるべきだと考え、またわたしが神について非常に真剣である数多の理由がある）都市の平和、土地の平和を不安定にすることは避けなければ

ならない。またわたしはどんな反抗的な支配や発言に対しても相違を放置せず、また反抗的で平和を破壊するとして知られるどんな者の手にも、武器を託すことを望まない。

わたしは、（結局は）多くの者の良心は、古代イスラエルの国家とその他の主張の双方から、説得されてしまうということを知っている。しかし敢えて言わせていただこう。わたしはあらゆるこのような主張の弱点を発見するほどの考慮を、真実と平和の君を愛するすべての人々の目に対して示すことができ、この点についてなされてきた、あるいはなされうるあらゆる反論に答えることができる。否定的な回答はもう十分である。

次に、肯定的に答えよう。一般的に答えると、本当の回心（アメリカ人であろうとヨーロッパ人であろうと）は、ユダヤ人のものであれ異邦人のものであれ、原型のようでなければならない。その掟は天使や使者の手にある金の物差しであり、黙11:1、他のものはすべて鉛製で歪んでいる。

特にまず、あらゆる人々を弟子にするのは、主イエスからの正当な派遣と権限によって証明できるような使者による、悔い改めと罪の赦しの自由な宣言あるいは説教、ルカ24、によらなければならず、それで聖なる三位一体の名や告白によってεις τὸ ὄνομα[6]彼らに洗礼を施すのである、マタ28:19、ロマ10:14, 15。

第二に、このような回心は（魔術師シモンなどにおけるような最初の使者たちの判断のように、必ずしも正確でない人間の判断が及ぶ限りでは）、サタンの力から神の力への全人間の転換、使26、のようである。このような変化は、まるで老人が新生児になるように、ヨハ3、本当に神の、魂の新しい創造に等しいのである、エフェ2:10。

第三に、明らかにそれは偶像からの、回心だけでなく礼拝について（異教徒やトルコ人やユダヤ人であろうと**反キリスト教徒**であろうと）、神の

---

6) 底本ではεις τὸ ὀνομὰとなっており、Iane Coe版は□□ς τὸ ὄ□ομα ᾽とあるが（□は判読不能箇所）、正しくは訳文中の表記となる。

御子によって約束された神の聖なる礼拝における、生ける真実の神への転換である、Iテサ1:9。

これに対して異議が唱えられたことは知っているが、もし十分に傾聴されるならば、金の物差しはあらゆる不正な歪みや逸脱を見出すであろう。

もし誰かが今、これが回心だというのならば、また、あなたがその土地や住民についての知識の点でこのような言語の手引きや好機の扉を持っているのならば、なぜアメリカであなたが話したような回心の模範を示し始めないのか、と言うとしよう。

わたしは答える。第一に、それにはわたし自身が経験する多くの実践と並はずれた苦痛や困難、言い換えると、言語能力の程度において、彼らに救済の問題を開示することができるほどに言語の慣熟に向かう何らかのことが必要である。

この世の事柄については、人々は詳細に説明するのを助け合おうとする。しかし（その魂が生来非常に嫌悪する）天国の事柄について、人々の耳はあらゆる不道徳な言葉を聞くことにはどれほど抵抗がないことか。

第二に、わたしの願いと努力は言語に練達するべく（神の助けによって）絶え間なく続くのである。

第三に、マサチューセッツ湾岸と他地域の立派な同郷人の名誉にかけて告白する。彼らの聖なる願いの表れと、わが尊敬すべき友、ハシラリー大佐の手によるわざの援助の申し出を、彼がそこに逗留している間、わたしは長く受け入れなかった。

しかし第四に、わたしは答える。もしある人が、ダビデが神のために家を建てるように愛情に溢れかつ熱心で、ナタンのように、問題や方法について、神ご自身からの言葉、権限、委任無しでこのわざを試みるよう助言し励ますように賢明で信心深いのであれば、彼らは以後（良い願いは聞き入れるが権限の欠乏は戒める）主の、わたしは今まで一言でも言ったことがあろうか、サム下7:7、といった声などを聞かなければならないのだ。

実は、このような重要な使命や牧師の本当の権限について、（神の慈悲

を通して）絶えず熟慮してきたので、わたしはおのれの魂の種々の主要な事項についての絶え間ない不満足を率直に告白する。

第一に（律法はシオンから発せられ、御言葉はエルサレムから発せられると考えられるので）、キリスト・イエス、すなわち神の聖なる御子と、キリストの敵、すなわち罪と地獄の子、の間における神の偉業は、まず過剰であってはならず、律法と命の言葉が、キリストについて聞いたことがない、世界のその他の民へと送り出される前に、シオンとエルサレムは再建され、再興されてはならないのかどうか。預言者はこれに深く関係がある。

第二に、（キリスト・イエスの最期の言葉と聖約によると）本当の派遣なくして説教はありえない以上、ロマ14:15、その権限の派遣と授与に関する力と権威、マタ28ほか、はどこにあるのか。その力は今どこにあるのか。

ローマ・カトリックとその同類の人々であれ、あるいは改革派、再建派と同類の人々であれ、彼らの虚偽の根拠によってこの力を要求する者たちを、そして今日あらゆる地域がそれに関わっている強力な議論を、ここですべて数え上げるのは場違いである。**ダニエル**（**エルサレム**征服の荒廃、ダニ9）について、**エルサレム**に下されたこの災難ほど恐ろしいものは、いまだ天下に起こったことはありませんでしたと、また**エレミヤ**についても同様に、哀1:12[7]で、道行く人よ、心して目を留めよ、よく見よ。これほどの痛みがあったろうか。わたしを責めるこの痛み、主がついに怒ってわたしを懲らすこの痛みほどの、との嘆きをある者たちに引き起こし得るような、考慮すべき深刻な質問を、わたしは適当な場で（恐らくは）提示するだろう。

そのことはわれわれに、自分たちがなしてきたあらゆることを恥じさ

---

7) 底本およびIane Coe版では哀2:12と記されているが、正しくは訳本中の箇所となる。

せ、エゼ43、自己嫌悪させるだろう。（不埒な礼拝において）われわれは不埒な心で主に背いてきたのだから、エゼ9。**ヨハネ**がしたように**イエス**の足もとに倒れて死んだようになれば、黙1、また彼のように激しく泣けば、黙5、かの子羊はあの**すばらしき巻物**とその七つの**封印された神秘**をわれわれに喜んで開くかもしれない。

あなたがたの不肖の同郷人

ロジャー・ウィリアムズ

了

"Christenings make not Christians"
The Original Text from *Complete Writings of Roger Williams*, vol.7,
Oregon: Wipf and Stock Publishers, 2006, pp.29-41,
(reprinted from New York: Russell and Russell, 1963).

The following original text is used by permission of Wipf and Stock Publishers. www.wipfandstock.com
次ページよりの原文テクストは、Wipf and Stock Publishers（www.wipfandstock.com）の許諾を得て掲載しております。

Chriſtenings
make not
CHRISTIANS,
OR

A Briefe Diſcourſe concerning that name *Heathen*, commonly given to the INDIANS.

As alſo concerning that great point of their CONVERSION.

Publiſhed according to Order.

London, Printed by *Iane Coe*, for I. H. 1645.

A Briefe Discourse concerning that name *Heathen*, commonly given to the INDIANS

As also concerning that great point of their CONVERSION.

I Shall first be humbly bold to inquire into the name *Heathen*, which the English give them, & the Dutch approve and practise in their name HEYDENEN, signifying Heathen or Nations. How oft have I heard both the English and Dutch (not onely the civill, but the most debauched and profane) say, These *Heathen* Dogges, better kill a thousand of them then that we *Christians* should be indangered or troubled with them; Better they were all cut off, & then we shall be no more troubled with them: They have spilt our *Christian* bloud, the best way to make riddance of them, cut them all off, and so make way for Christians.

I shall therefore humbly intreat my country-men of all sorts to consider, that although men have used to apply this word *Heathen* to the Indians that go naked, and have not heard of that One-God, yet this word *Heathen* is most improperly sinfully, and unchristianly so used in this sence. The word *Heathen* signifieth no more then *Nations* or *Gentiles;* so do our Translations from the Hebrew גוים and the Greeke ἔθνη, in the old and New Testament promiscuously render these words *Gentiles, Nations, Heathens.*

Why Nations? Because the Jewes being the onely People and Nation of God, esteemed (and that rightly) all other People, not only those that went naked, but the famous BABYLONIANS, CALDEANS, MEDES, and PERSIANS, GREEKES and ROMANES, their stately Cities and Citizens, inferiour themselves, and not partakers of their glorious privileges, but Ethnicke, Gentiles, Heathen, or the Nations of the world.

Now then we must enquire who are the People of God, his *holy nation,* since the coming of the Lord Jesus, and the rejection of his first typicall holy Nation the Jewes.

It is confest by all, that the CHRISTIANS the followers of Jesus, are now the onely People of God, his *holy nation,* &c. ἔθνος ἅγιον I. *Pet.* 2.9.

Who are then the *nations, heathen,* or *gentiles,* in opposition to this *People of God?* I answer, All People, *civilized* as well as *uncivilized,* even the most famous States, Cities, and the Kingdomes of the World: For all must come within that distinction. I. Cor. 5. *within* or *without.*

Within the *People of God,* his Church at CORINTH: *Without* the City of CORINTH worshipping *Idols,* and so consequently all other People, HEATHENS, or NATIONS, opposed to the People of God, the true *Jewes:* And therefore now the naturall *Jewes* themselves, not being of this People, are *Heathens, Nations* or *Gentiles.* Yea, this will by many hands be yeelded, but what say you to the *Christian world?* What say you to *Christ endome?* I answer, what do you thinke *Peter* or *John,* or *Paul,* or any of the first Messengers of the Lord Jesus; Yea if the Lord Jesus himselfe were here, (as he will be shortly) and were to make answer, what would they, what would he say to a CHRISTIAN WORLD? To CHRISTENDOME? And otherwise then what He would speak, that is indeed what he hath spoken, and will shortly speake, must no man speak that names himselfe a Christian.

Herdious in his Map of his CHRISTIAN WORLD takes in all *Asia, Europe,* a vaste part of *Africa,* and a great part also of *America,* so far as the *Popes Christnings* have reached to.

This is the CHRISSION WORLD, or Christendome, in which respect men stand upon their tearmes of *high opposition* between the

CHRISTIAN and the TURKE, (the Christian shore, and the Turkish shore) between the CHRISTIANS of this Christian WORLD and the JEW, and the CHRISTIAN and the HEATHEN, that is the naked *American.*

But since *Without* is turned to be *Within,* the WORLD turned CHRISTIAN, and atheittle *flocke* of JESUS CHRIST hath mforvelllously increased in such wonderfull conversions, let me be bold to aske what is Christ? What are the Christians? The Hebrew משיאך, and the Greeke χρῖστος will tell us that Christ was and in (is) the *Anointed* of God, whom the prophets and Kings and preists of Israel in their *anointings* did prefigure and type out; whence his followers are called χριστιανοι christians, that is *Anointed* also: So that indeed to be a *christian* implyes two things, first, to be a follower of that anointed one in all his Offices; secondly, to pertake of his anointings, for the Anointing of the Lord Jesus (like to the anointings of AARON, to which none might make the like on pain of death) descend to the skirt of his garments.

To come nearer to this Christion world, (where the world becomes christian holy, anointed, Gods People, &c.) what saith John? What saith the Angel? Yea, what saith Jesus Christ and his Father (from whom the Revelation came *Revel* I.I.? What say they unto the Beast and his Worshippers Revel. 13.

If that beast be not the *Turke,* nor the *Roman Emperour* (as the grossest interpret) but either the generall councels, or the catholike church of *Rome,* or the Popes or Papacy (as the most refined interpret) why then all the *world, Revel.* 13. ὅλη ἡ γῆ *wonders* after the *Beast,* worships the *Beast,* followeth the *Beast,* and boasts of the *Beast,* that there is none like him, and all People, Tongues, and Nations, come under the power of this Beast, & no man shall buy nor sell, nor live, who hath not the marke of the *Beast* in his *Fore-head,* or in his hand, or the number of his name.

If this *world* or *earth* then be not intended of the whole terrestriall Globe, *Europe, Asia, Africa* and *America,* (which sence and experience denyes) but of the *Roman earth,* or world, and the People, Languages, and Nations, of the *Roman Monarchy,* transferred from the *Roman*

Emperour to the *Roman* Popes, and the Popish *Kingdomes*, branches of that ROMAN-ROOT, (as all *history* and content of time make evident.)

Then we know by this time what the Lord Jesus would say of the Christian world and of the *Christian:* Indeed what he saith *Revel.* 14. If any man worship the *Beast* or his *picture*, he shall drinke &c. even the dread fullest cup that the whole Booke of God ever held forth to sinners.

Grant this, say some of *Popish* Countries, that notwithstanding they make up Christendome, or Christian world, yet submitting to that *Beast*, they are the *earth* or *world* and must drinke of that most dreadfull cup: But now for those nations that have withdrawn their necks from that *beastly yoke*, & protesting against him, are not Papists, but Protestants, shall we, may we thinke of them, that they, or any of them may also be called (in true Scripture sence) *Heathens*, that is Nations or Gentiles, in opposition to the People of God, which is the onely holy Nation.

I answer, that all Nations now called *Protestants* were at first part of that whole Earth, or main (ANTICHRISTIAN) Continent, that wondered after, worshipped the Beast, &c. This must then with holy feare and trembling (because it concernes the KINGDOME of God, and salvation) be attended to, Whether such a departure from the *Beast*, and coming out from ANTICHRISTIAN abominations, from his markes in a false conversion, and a false constitution, or framing of NATIONALL CHURCHES in false MINISTERIES, and ministrations of BAPTISME, *Supper of the Lord, Admonitions, Excommunications* as amounts to a true perfect Hand, cut off from that Earth which wonderd after and worshipped the *Beast:* or whether, not being so cut off, they remaine not *Peninsula* or necks of land, contiguous and joyned still unto his *Christendome?* If now the bodies of Protestant Nations remaine in an unrepentant, unregenerate, naturall estate, and so consequently farre from hearing the admonitions of the Lord Jesus, Math 18. I say they must sadly consider and know (least their profession of the name of Jesus prove at last but an aggravation of condemnation) that Christ Jesus hath said, they are but as *Heathens* and *Publicanes*, vers. 17. How might I therefore humbly beseech my country

men to consider what deepe cause they have to search their conversions from that *Beast* and his *Pisture?* And whether having no more of Christ then the name (beside the invented wayes of worship, derived from, or drawn after *Romes pattern*) their hearts and conversations will not evince them unconverted and *unchristian Christians,* and not yet knowing what it is to come by true Regeneration within, to the true spirituall Jew from without amongst the Nations, that is *Heathens* or *Gentiles.*

How deeply and eternally this concerns each soule to search into! yea, and much more deeply such is professe to be Guides, Leaders, and Builders of the HOUSE of God.

First, as they look to *Formes* and *Frame* of Buildings, or Churches.

Secondly, as they attend to *Meanes* and *Instruments,* &c.

Thirdly, as they would lay sure Foundations; and lasting Groundsells.

Fourthly, as they account the cost and charge such buildings will amount unto.

Fifthly, so they may not forget the true spirituall matter and materials of which a true House, Citty, Kingdome, or Nation of God, now in the new Testament are to be composed or gathered.

Now Secondly, for the hopes of CONVERSION, and turning the People of *America* unto God: There is no respect of Persons with him, for we are all the worke of his hands; from the rising of the Sunne to the going downe thereof, his name shall be great among the nations from the East & from the West, &c. If we respect their sins, they are far short of *European* sinners: They neither abuse such corporall mercies for they have them not; nor sin they against the Gospell light, (which shines not amongst them) as the men of *Europe* do: And yet if they were greater sinners then they are, or greater sinners then the *Europeans,* they are not the further from the great *Ocean* of mercy in that respect.

Lastly, they are intelligent, many very ingenuous, plaine-hearted, inquisitive and (as I said before) prepared with many convictions, &c.

Now secondly, for the Catholicks conversion, although I believe I may safely hope that God hath his in Rome, in Spaine, yet if Antichrist be their false head (as most true it is) the body, faith, baptisme,

hope (opposite to the true, Ephes. 4.) are all false also; yea consequently their preachings, conversions, salvations (leaving secret things to God) must all be of the same false nature likewise.

If the reports (yea some of their owne *Historians*) be true, what monstrous and most inhumane conversions have they made; baptizing thousands, yea ten thousands of the poore Natives, sometimes by wiles and subtle devices, sometimes by force compelling them to submit to that which they understood not, neither before nor after such their monstrous Christning of them. Thirdly, for our *New-england* parts, I can speake uprightly and confidently, I know it to have been easie for my selfe, long ere this, to have brought many thousands of these Natives, yea the whole country, to a far greater Antichristian conversion then ever was yet heard of in *America*. I have reported something in the Chapter of their Religion, how readily I could have brought the whole Country to have observed one day in seven; I adde to have received a *Baptisme* (or washing) though it were in *Rivers* (as the first *Christians* and the Lord *Jesus* himselfe did) to have come to a *stated Church meeting*, maintained priests and formes of prayer, and a whole forme of *Antichristian* worship in life and death. Let none wonder at this, for *plausible perswasions* in the mouths of those whom naturall men esteem and love: for the power of prevailing forces and armies hath done this in all the *Nations* (as men speake) of *Christendome*. Yea what lamentable experience have we of the *Turnings* and *Turnings* of the *body* of this Land in point of Religion in few yeares?

When *England* was all *Popish* under Henry the seventh, how easie is conversion wrought to halfe Papist halfe-Protestant under *Henry* the eighth?

From halfe-Protestanisme halfe-Popery under *Henry* the eight, to absolute Protestanisme under Edward the sixth: from absoluer Protestation under *Edward* the sixt to absalute popery under Quegne *Mary*, and from absolute Popery under Queene *Mary*, (just like the Weathercocke, with the breath of every Prince) to absolute Protestanisme under Queene *Elizabeth* &c.

For all this, yet some may aske, why hath there been such a price in my hand not improved? why have I not brought them to such a con-

version as I speake of? I answer, woe be to me, if I call light darknesse, or darknesse light; sweet bitter, or bitter sweet; woe be to me if I call that conversion unto God, which is indeed subversion of the soules of Millions in *Christendome,* from one false worship to another, and the prophanation of the holy name of God, his holy Son and blessed Ordinances. *America* (as *Europe* and all nations) lyes dead in sin and trespasses: It is not a suite of crimson Satten will make a dead man live, take off and change his crimson into white he is dead still, off with that, and shift him into cloth of gold, and from that to cloth of diamonds, he is but a dead man still: For it is not a forme, nor the change of one forme into another, a finer, and a finer, and yet more fine, that makes a man a convert I meane such a convert as is acceptable to God in Jesus Christ, according to the visible Rule of his last will and Testament. I speake not of Hypocrites, (which may but glister, and be no solid gold as *Simon Magus, Judas* &c.) But of a true externall conversion; I say then, woe be to me if intending to catch men (as the Lord Jesus said to *Peter*) I should pretend conversion) and the bringing of men as mistical fish, into a *Church-estate,* that is a converted estate, and so build them up with *Ordinances* as a converted Christian People, and yet afterward still pretend to catch them by an after conversion. I question not but that it hath pleased God in his infinit pitty and patience, to suffer this among us, yea and to codvert thousands, whom all men, yea and the persons (in their personall estates converted) have esteemed themselves good converts before.

But I question whether this hath been so frequent in these late yeares, when the times of ignorance (which God pleaseth to passe by) are over, and now a greater light concerning the Church, Ministery, and conversion, is arisen. I question whether if such rare talents, which God hath betrusted many of his precious Worthies with, were laid out (as they shall be in the Lord's most holy season) according to the first pattern; I say, I question whether or no, where there hath been one (in his personall estate converted) there have not been, and I hope in the Lords time shall be, thousands truly converted from *Antichristian Idols* (both in *person* and *worship*) to serve the living and true God.

And lastly, it is out of question to me, that I may not pretend a *false conversion*, and *false state* of *worship*, to the true Lord Jesus.

If any noble *Berean* shall make inquiry what is that true conversion I intend; I answer first negatively.

First, it is not a conversion of a People from one false worship to another, as *Nebuchadnezzer* compeld all Nations under his Monarchy.

Secondly, it is not to a mixture of the manner or worship of the true God, the God of Israel, with false gods & their worships, as the People were converted by the King of *Assyria*, 2, Kin. 17. in which worship for many Generations did these *Samaritans* continue, having a forme of many wholsome truths amongst them, concerning God and the *Messiah*, Joh. 4.

Thirdly, it is not from the true to a false, as Jereboam turned the ten Tribes to their ruine and dispersion unto this day, I. Kin. 12.

Fourthly, it must not be a conversion to some externall submission to Gods Ordinances upon earthly respects, as JACOBS sons converted the *Sichemites*, *Gen.* 34.

Fiftly, it must not be, (it is not possible it should be in truth) a conversion of People to the woship of the Lord Jesus, by force of Armes and swords of steele: So indeed did *Nebuchadnezzer* deale with all the world, *Dan.* 3. so doth his *Antitype* and *successor* the *Beast* deal with all the earth, *Rev.* 13. &c.

But so did never the Lord Jesus bring any unto his most pure worship, for he abhorres (as all men, yea the very *Indians* doe) an unwilling Spouse, and to enter into a forced bed: The will in worship, if true, is like a free Vote, nec cogit, nec cogitur: JESUS CHRIST compells by the mighty perswasions of his Messengers to come in, but otherwise with earthly weapons he never did compell nor can be compelled.

The not discerning of this ttuth hath let out the bloud of thousands in civill combustions in all ages; and made the whore drunk, & the Earth drunk with the bloud of the Saints, and witnesses of Jesus.

And it is yet like to be the destruction & and dissolution of (that which is called) the Christian world, unlesse the God of peace and pity looke downe upon it, and satisfy the soules of men, that he hath not so required. I should be far yet from unsecuring the peace of a City,

of a Land, (which I confesse ought to be maintained by civill weapons, & which I have so much cause to be earnest with God for) Nor would I leave a gap open to any mutinous hand or tongue, nor wish a weapon left in the hand of any known to be mutinous and peace-breakers.

I know (lastly) the consciences of many are otherwise perswaded, both from Israels state of old, and other Allegations; yet I shall be humbly bold to say, I am able to present such considerations to the eyes of all who love the Prince of truth and Peace, that shall discover the weaknesse of all such allegations, and answer all objections, that have been, or can be made in this point. So much negatively.

Secondly, affirmatively: I answer in generall, A true Conversion (whether of *Americans* or *Europeans*) must be such as those Conversions were of the first pattern, either of the Jewes or the Heathens; That Rule is the golden *Mece wand* in the hand of the Angell or Messenger, *rev.* II. I. beside which all other are leaden and crooked.

In particular: First, it must be by the free proclaiming or preaching of Repentance & forgivenesse of sins. Luk. 24. by such Messengers as can prove their lawfull sending and Commission from the Lord Jesus, to make Disciples out of all nations: and so to baptize or wash them εἰς τὸ ὄνομὰ into the *name* or *profession* of the holy Trinity, *Mat,* 28. 19 Rom. 10. 14. 15.

Secondly, such a conversion (so farre as mans Judgement can reach which is fallible, (as was the judgement of the first Messengers, as in *Simon Magus,* &c.) as is a turning of the whole man from the power of *Sathan* unto God, *act.* 26. Such a change, as if an old man became a new Babe B 2 *Joh.* 3. yea, as amounts to Gods new creation in the soule, *Ephes,* 2. 10.

Thirdly, Visibly it is a turning from Idols not only of *conversation* but of *worship* (whether *Pagan,* Turkish, Jewish, or ANTICHRISTIAN) to the Living and true God in the waies of his holy worship, appointed by his Son, I Thes. I. 9.

I know Objections use to be made against this, but the *golden Rule,* if well attended to, will discover all crooked *swervings* and *aberrations.*

If any now say unto me, Why then if this be *Conversion,* and you have such a *Key* of *Language,* and such a dore of *opportunity,* in the

knowledge of the Country and the inhabitants, why proceed you not to produce in *America* some patternes of such conversions as you speake of?

I answer, first, it must be a great deale of practise, and mighty paines and hardship undergone by my selfe, or any that would proceed to such a further degree of the Language, as to be able in propriety of speech to open matters of salvation to them.

In matters of Earth men will helpe to spell out each other, but in matters of Heaven (to which the soule is naturally so averse) how far are the Eares of man hedged up from listening to all improper Language?

Secondly, my desires and endeavours are constant (by the helpe of God) to attaine a propriety of Language.

Thirdly, I confesse to the honour of my worthy Countrymen in the *Bay* of *Massachuset*, and elsewhere, that I received not long since expressions of their holy desires and proffers of assistance in the worke, by the hand of my worthy friend Colonell *Humphreys*, during his abode there.

Yet fourthly, I answer, if a man were as affectionate and zealous as *David* to build an house for God, and as wise and holy to advise and incourage, as *Nathan*, attempt this worke without a *Word*, *Warrant* and *Commission*, for *matter*, and *manner*, from GOD himselfe, they must afterwards heare a voice (though accepting good desires, yet reproving want of Commission) *Did I ever speak a word saith the Lord?* &c. 2. *Sam.* 7.7.

The truth is, having not been without (through the mercy of God) abundant and constant thoughts about a true Commission for such an Embassie and Ministery. I must ingenuously confesse the restlesse unsatisfiednesse of my soule in divers *main particulars:* As first whether (since the Law must go forth from *Zion*, and the word of the Lord from *Jerusalem*) I say whether Gods great businesse between Christ Jesus the holy Son of God and Antichrist the man of sin and Sonne of perdition, must not be first over, and *Zion* and *Jerusalem* be rebuilt and re-established, before the Law and word of life be sent forth to the rest of the Nations of the World, who have not heard of Christ: The Prophets are deep concerning this.

Secondly since there can be no preaching (according to the last Will and Testament of Christ Jesus) without a true sending *Rom.* 14. 15. Where the power and authority of *sending* and *giving* that *Commission Math.* 28 &c. I say where that power now lyes?

It is here unseasonable to number up all that lay claime to this *Power*, with their grounds for their pretences, either those of the *Romish* sort, or those of the *Reforming* or *Re-building* sort, and the mighty controversies which are this day in all parts about it: in due place (haply) I may present such sad *Queries* to consideration, that may occasion some to cry with DANIEL (concer-JERUSALEMS desolation *Dan.* 9) *Under the whole Heaven hath not been done, as hath been* done to JERUSALEM: and with JEREMY in the same respect, Lam. 2. 12. *Have you no respect all you that passe by, behold and see if there were ever sorrow like to my sorrow, wherewith the Lord hath afflicted me in the day of his fierce wrath.*

That may make us ashamed for all that wee have done, *Ezek.* 43 and loath our selves, for that (in whorish worships) wee have broken him with our whorish hearts *Ezek.* 9. To fall dead at the feet of JESUS, *Rev.* I. as JOHN did, and to weepe much as hee *Rev.* 5. that so the Lamb may please to open unto us that WONDERFUL BOOK and the seven SEALED MYSTERIES thereof.

Your unworthy Country-man
ROGER WILLIAMS.

FINIS.